

今の世の中は健常者を中心に回っていると思います。私はハンデを持っている人達にも優しい環境が必要だと考えます。

先日、私は診察を受けに病院に行きました。

そこではモニターに診察番号が大きく写されていて、順番が来ると音が鳴り、〇〇さんと呼んでくれて、私はバリアフリーな世の中になっていてすごいなと思っていました。しかし、耳の不自由な私の父は、診察室に入って説明を聞く時、先生はマスクをしているし早口な人もいるようで十分に口の形が読みとれなくて何を言っているのか分からないようでした。説明が分からなければ診察の意味は半減すると思います。健常者の視点からではなく、ハンデのある人達の声を聞くべきだと思います。例えば話をするときはマスクを外してはっきり喋るだけでも耳が聞こえない人にとっては助かります。目の見えない人にはどこが悪いのかを体にくすぐって教えてあげると分かりやすいと思います。

最近話題だった映画「君の名は。」ですが、私の父は見るできませんでした。字幕が付いていなかったからです。もちろん、他の邦画も映画館では見られません。新しい物が特に好きな父からすると、歯がゆいような思いがずっとあったことでしょう。

このように話題の映画を早く見たくてもハンデを持っているために見られない、または楽しめないという人は父以外にも大勢いると思います。今、すでに完成された映画すべてに字幕を付けるのが難しくても少しずつ字幕付きの映画を増やすことは可能だと思います。

また、目が見えない人も楽しめるように副音声をつけたり、体で感じるができるような工夫をしたり、とできることはたくさんあるのではないかと考えます。

しかし、私が言ったような誰でも簡単に思いつくことが、今までに実現していないのはなぜなのでしょう。

私はこれこそ「健常者中心に考えているから」だと思います。確かに、私達健常者はバリアフリーな世の中に変えたい、変えようとする意識自体はあると思います。しかし、それが本当にハンデを持つ人達の毎日に役立ち、楽しく過ごせるものであるかどうかは分かりません。健常者の視点ではなく、ハンデを持つ人達の視点に立つ意識が大切だと思います。このことを心に留めて行動することで、今まで気付かなかった改善点を見つけたり、細かな気配りができたりするかもしれません。そしてハンデを持つ人達にこうなったらもっと生活しやすくなるというアイデアを提案してもらうことでより良い世の中に変えていけるはずだと思います。

私はみんなが過ごしやすい世の中を作りたいです。社会をバリアフリーにしたいです。

今を生きる人達の考え方で出来ている社会を変えていくためには、今を生きる人達全員の方を変えていく必要があります。悲しいけれど、私一人の力ではどうすることもで

きないのです。どうか私に協力してくれないでしょうか。少しだけ意識を変えてみてくれないでしょうか。健常者もハンデを持つ人達もお互いに意見を出し合い、支え合うことができる社会を目指して、協力しませんか。

私は、ハンデを持つ人達に寄りそうべきだと思います。健常者、とそうでない人ではなく、ハンデを持つ人と、そうでない人という考え方に変えるべきだと思います。そして、そうでない人達はハンデを持つ人達を第一に考え、役に立つ工夫をするべきだと思います。

私の話を聞いて、協力してくれる人がたくさん現れることを強く願っています。